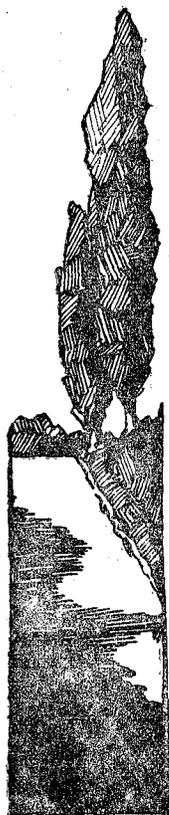


# 論 說

## 道路政策の確立を望む



瀧 本 誠 一

十八世紀の獨逸の學者が曾て同國の北部地方を旅行して、旅行は結婚と同じく人に忍耐力を養成せしむるの効果ありと云つて、その頃獨逸の北部地方の道路が非常に悪くして、旅客を苦しめたことを述べた記録もあつた様であるが、我が國の現在はそれほどではなく、いづれの地方に於ても道路は近年著るしく改良したことは疑ひなき事實なるも、余が茲に道路政策として特に當局及び一般輿論の反省を促がしたいのは、尋常の意味に於ける改良ではない。舊來の誤まれる對道路思想を根本的に一掃し、國家の主たる公道は今や實に官公吏や民間政治家等の往來の便利に供する道具たるに止まらず、國家の運命を支配する最上の大機關であつて、十九世紀の後半より二十世紀の初頭に於て偉大の貢獻を爲したる鐵道よりは、更らに一層重大なる機關として發達しつゝあることは、歐米文明國

の現状に徴して明かなれば余はこの點に就き朝野の政治家が早く自覺して徹底的に道路政策の方針を確立し財政の餘裕があつたならば其の改良費に振向けるなど、云へるが如き姑息手段に依頼せずして確乎たる一定の大財源を設置して統一的の計畫の下に眞の大改良を斷行せんことを切望するのである。

勿論この大目的を達せんとするには相當有力の政治機關を必要とするのであるが、余はそれには中央に獨立の一省を設け出來得べくんば鐵道省を廢して、道路及鐵道に關する一切の事務を其の省の下に統轄し、道路と鐵道の二部に分けて完全に必要の機關を具備し、道路と鐵道との聯結を保つる便を計らんことを欲するのである。今日の如く路面に於ける機械的運送の世の中となつては道路の築造には巨額の費用を要する精巧堅固なる技術的の設計を必要とし、其の維持補修にも年々絶えず種々の事務と費用との必要あることは云ふ迄もなく、隨つてこの道路の延長普及するに至つては、其の行政上の事務は固より鐵道の經營の如く繁雜ならざるべきも余の希望の如き大仕掛けの改良を斷行するには、少なくとも十數年間は獨立の一省、或は鐵道と合併してに於て之を統轄しなければならぬであらう。英國に於て世界大戰前に設けられた道路局が近年に至り運輸省の中に統一せられたるも亦恐らくはこの意に外ならざるべし。

余が前に確乎たる一定の大財源を設置すべしと云ふ一點に付ては、財政困難の際そんな法外の事を望んでもそれは不可能であると難する者あるべきも斯くの如き事を云つて反對するのは財源の

有無の問題ではない國家の公道に大改良を斷行して二十世紀後半の經濟的大發達に備ふることが、今日の緊急政務であるか否かの問題である。近き將來に鐵道以上に重大化せんとする機械的路上運送を國家の經濟的發達の重大機關と認むると認めざるの問題である。余は此の機械的路上運送の爲にする公道の大改良は少なくとも今日に於ては國防教育其他の重要政務に劣らざる重大の政務であると信するのである。農村の振興貧農の救済米價の調節等あらゆる緊急政務は此の道路問題が根本的問題にして道路が完全にしてメカニカル、トラクション(主として貨物自動車)の用に堪ゆるが如きに至つたならば今日農村改良の最先要件たるマーケティングの問題は、大半自ら解決すべきは明かである。道路改良の眞の意義を解せずして農村問題に没頭するは、所謂木に縁つて魚を求むるの類にて思はざるの甚だしきである。故に余は營利の目的を以て發起することの出来ない道路の改良は、國家の進んで従事すべき緊急政務中の最も緊急なるものであると思惟するのである。乃ち國家は國防費教育費其他の重大政費と同じく充分の費額を一定して豫算に計上せねばならない筈である。無い袖は振られぬなどの遁辭を以て之を冷視すべき性質のものにあらず。

加之ならず余はこの大改良を實行するに當りては、現今の國道を一、二の二等若くは一、二、三の三等に分ち、幅員、長短等に依つて其の等差を定め、現今の府縣道の主たるものは皆之を二、三等道路として國家自ら之を改築修補し、又は所に依つて必要あれば全く新たに之を築造して相成るべく廣く一般に統一したる堅固の大道を通し、全國に渉る道路網を完成して、それと同時に各府縣の自動車税を地

方税目より削除して國税に編入し前途有望なる此の自動車税を基礎となして道路基金の設置を爲し、先づ最初は一般歳入より必要の額を支出し漸次實行の上は數年ならずして單に自動車税の收入のみにて、優に改良維持に充つべき財源たるに至るべしと思はる。英國などは日本に比し富の懸隔甚だしき差異あるを以て一概に比較にはならざるも、フェネロン氏の「道路運輸經濟學」に引用する所に依れば、一九二一年に於けるモーター税の收入は九、七三五、八三二磅なりしが、其の翌年は一一、〇一三、八六一磅に上り、又其の翌年なる一九二三年には一二、七五七、五五〇磅に増加し、一九二四年に至りては俄然劇増して、同年度の初めの九個月だけにて既に一三、八九二、八七〇磅の巨額に上り居れば、其の後七年を経過したる今日に於ては、どれ程内輪に積ても、優に邦貨二億圓以上の收入あることは明かであらう。日本に於ては自動車税に依つて年々二億圓の歳入を得るなど、は中々思も寄らぬ話なれども、自動車利用の盛に發達しつゝある世界の太勢に徴して之を觀察すれば、近き將來に於て農村各地方に旅客及貨物運送の最も便利なる利器として、大に自動車の發達を促すべきことは眼前に明かなる所なれば、自動車税の歳入は前途最も有望なるものにして、英國のその如き巨額には到底達し得られずとするも、其の半額位の收入を得ることは必ずしも不可能のことにあらざるべし。故に今この自動車税を國税となし、其の收入を國庫に收むることゝすれば、之と同時に府縣道を悉く國道となして、其の維持補修若くは擴張に關する費用を國庫の負擔とするも、財政上左までの難事にあらざるべしと思ふ。假令道路改良の効果が直接に自動車税の大増加を來すことなしとするも、それ

が一般に國家經濟の發達を促進するの要具として偉大の功績を奏するものとすれば、財政上間接に他の諸税の増加を來すこと勿論なれば、良し自動車税の收入を以てしては、逆も國道の維持改良費に充つるに足らずとしても、廣く國家經濟の全體に涉つて遠大の利益ありとすれば、直接に道路面の使用に依つて收支相償ふだけの利得なしと雖も、國家重大の政務として之を斷行するに於ては、少しも遠慮躊躇に及ばざることであらう。アダム・スミスは會て國富論に於て善良なる道路を保持することとは、疑もなく社會全體の利益である、故に此の保持に必要な一切の費用は、其の社會全體の一般經費中より支辨するに於て、何の不可なる所なしと云へることありしが、機械的路上運送の鐵道以上に重大化しつゝある今日に於ては、スミスの言の益々適切なることを記憶し居るの必要あらん。

完全なる道路政策を確立して國家經濟の源泉を開發するは、今日が此の上もなき好時機である。余は失業救済の目的を以てする道路改良は、到底何の用にも立たざる姑息政策として取らざる所なるも、政治上には大衆の愚論を利用するの必要も亦之れなきにあらざるべきが故に、失業問題の喧しき今日、名稱を失業救済に托するなり何なりともして、此の際道路改良の大方針を一定し統一したる有力なる常設の大機關を新置して、着々と之を斷行せんことを切望に堪へないのである。今日の機會を逸し、經濟界の景氣一轉して好運に向はんとする時には、労働市場の需用増進して一般道路の改良などに着目するものは、絶へて無くなつて仕舞ふのである。世上に失業救済など、事實問題とするに足らざること、大騒ぎ噪ぎ立てる此の際に大方針を確立して置くのが、政治家の手腕の存する

所であらう。名稱は失業救済に托するも、根本の目的は道路の改良にあるのである。此の大目的を達するの附帶事業として、失業救済の一端とするは勿論策の得たるものなるべきもそれにしても現在失業して居る人々を目當に救済するは救済の方法を得たるものにあらず、道路改良事業を施行するに當り一般労働市場の状況を顧慮し、其の繁閑を見計らつて、廣く間接に之を調節するの方針を取らねばならぬ。現在の失業者其の人々を特に救済するは、乞兒に金品を惠與すると同じく姑息の甚だしきものである。道路政策の上から觀察して失業救済の目的をも同時に達せんとすれば、現に失業して居る其人を特に目當に爲すべからざることはシドニー・ウエツプ氏が國道論に論じて居る通りのことである。労働者を使用した後始末はどうするなどの馬鹿げた問題の起る皆この道路改良事件を廣く労働市場の調節機關の一として利用する方法を了解し得ざる過である。余は此の點に關して更に他日を待つて詳論する所あるべし。

## 道路會議復活の要求

大 口 喜 六

今の道路法が衆議院に提出されたのは第四十一回帝國議會で、大正八年の一月であつた。當時其